



俳句

横山 容子 選

今年又句碑のあたりの花筵はなじろ
伊藤律子

出番待つ子等の化粧や春祭
森岡歌子

お手玉のすぐにこぼれて山笑ふ
竹内やよい

四万十の淵の碧さや風光る
波部喜生

東の間を音立て降りし霞あられかな
松木尚成

菜の花に埋め尽されし河川敷
加藤泰江

だれかれの愛を賜り卒業す
菅 正子

木瓜ぼけの花淋しき庭を明るくす
杉田多矢子

川柳

金子 一孝 選

夫逝き姑と暮して五十年
加藤千賀子

温度差に昨日は春で今日は冬
高塚フミ子

若いけど三寒四温息乱す
高塚啓子

食卓に向う夫婦に会話なし
塩見真由美

摘んで来たつくしに夕餉ゆうげ春を盛る
木原恵美子

笹鳴きの聞こえる寺を訪ねたり
高橋 和

共白髪昭和の話し盛り上る
尾崎康博

土筆つくし出てあの田この田のうすみどり
三好清信

短歌

藤田 虎雄 選

伐採し捨てられし枝を持ち帰り花瓶に挿して
梅見樂しむ 真鍋生朝子

生け残りのバケツの中の柳の木 水温み春芽
を吹きており 青野淑子

巣立ちゆく息子と植えし桜咲く月日は流れ息
子は父に 渡邊清賀

わずかづつ平年並みを外れ咲く あれこれの
花種まき惑う 佐伯利枝

生産者の名前探して里芋の赤芽を買ひぬ周ち
やん広場 森田 薫

快晴に干ししふとんに抱かれて その暖かさ
匂いに眠る 坂根祐子

黄泉路よみじへと旅立つ朝の夫つまの声「腹が減った。」
が耳に残れる 高橋容子

親しき友 約束残し旅立ちぬ春の訪れ目の前
にして 杉田多矢子

俳句・川柳・短歌 作品募集

作品は、読みやすい書体で作成し、俳句・川柳・短歌の別を書き、漢字にはふりがなを振り、住所・氏名・電話番号を明記し、毎月1日までに郵送または提出してください。

〒793-8601 明屋敷164

西条市役所 広報広聴課 広報係
Tel 0897-52-1204 (直通)

ふるさと産品通信

大きさを呼び名が変わる

ちりめん

問合せ

市庁舎新館2階 観光物産課
物産・ブランド推進係
TEL0897-52-1380



日差しがまぶしく海が青々とするこの季節、港新地先では「ちりめん」の生産が真っ盛りとなります。

毎年この時期の風物詩であるちりめんの天日干し。太陽に照らされたちりめんは銀色に輝き、海の香りとともに初夏の爽やかな風を私たちに届けてくれます。ちなみに「ちりめん」の名前の由来は、平らに広げて干した様子が、繊細なしわをもつ高級絹織物のちりめんのように見えるからだそうです。

市内でのちりめんの生産は、約40年前からひうち灘で漁獲されるカタクチイワシの稚魚・幼魚をおいしく食する方法として始められました。

カタクチイワシは日本各地で採れますが、特に瀬戸内は、ちりめんの産地の一つとして有名です。そのちりめんは、大きさによって呼び名が変わり、小さい順に「ちりめん」「かえり」「小羽」「中羽」「大羽」と呼ばれます。

汁物のだしとして使われる「大羽いりこ」は、昔から西条まつりでお酒のあてとして親しまれてきました。

漁期と生産の時期は主に7月～8月で、小型機船船曳網漁と呼ばれる漁法で漁獲し、西条地先の浜で水揚げしてからすぐにゆで上げ加工した後、天日干して乾燥します。その後、漁連の入札に持ち込まれ、全国各地へ出荷されていきます。

ちりめんにはカルシウムのほか、ビタミンDも豊富で、血液や血管の健康に効果のあるEPAやDHAもたくさん含まれています。



▲食べごたえ十分な「かえり」